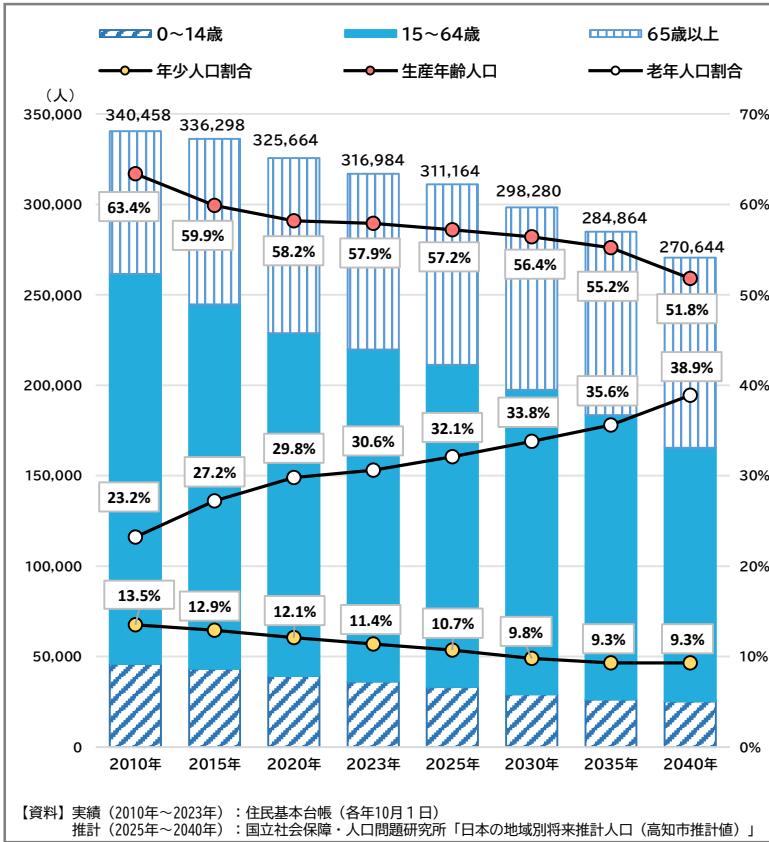


01 高知市の状況

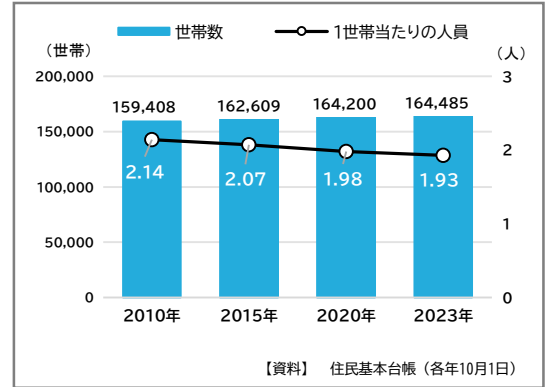
① 人口の推移

総人口および0～64歳の人口は減少し続け、65歳以上の人口割合は2040年には40%近くになることが見込まれており、今後も少子高齢化が一層進行することが予想されます。



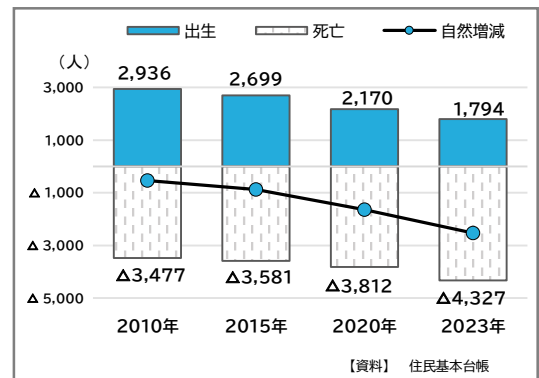
② 世帯数および1世帯当たりの人員の推移

世帯数は増加を続けていますが、1世帯当たり平均人員は減少しており、単身世帯など世帯の小規模化が進んでいます。



③ 出生数および死亡数の推移

出生者数は減少傾向となっており、死亡数が出生数を上回る自然減が続いています。



市民の地域福祉に関する意識

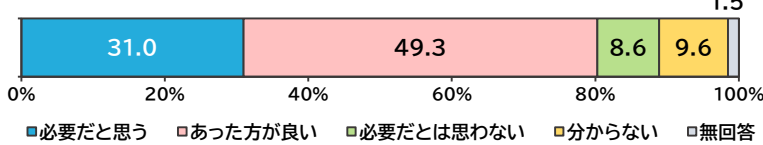
地域福祉に関するアンケート調査(令和5年9月27日～10月24日実施)

【対象】高知市に住み票のある16歳以上の方(3,000人)

【方法】郵送またはWEBで回答(回収率39.3%・回答者数1,178人)

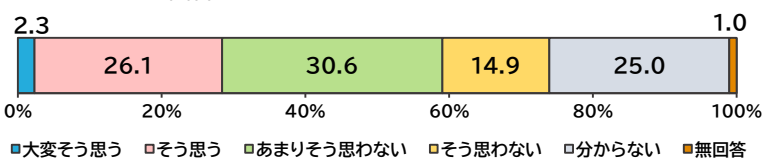
■ 地域の支え合い・助け合いへの考え方

住民同士の助け合いの必要性については、約8割の方が必要性を感じています。



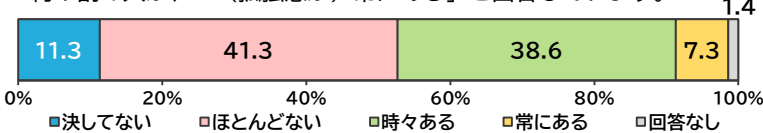
■ 地域における助け合いの状況

約3割の人が、自身の住んでいる地域では、お互いの助け合いができていると思うと回答しています。



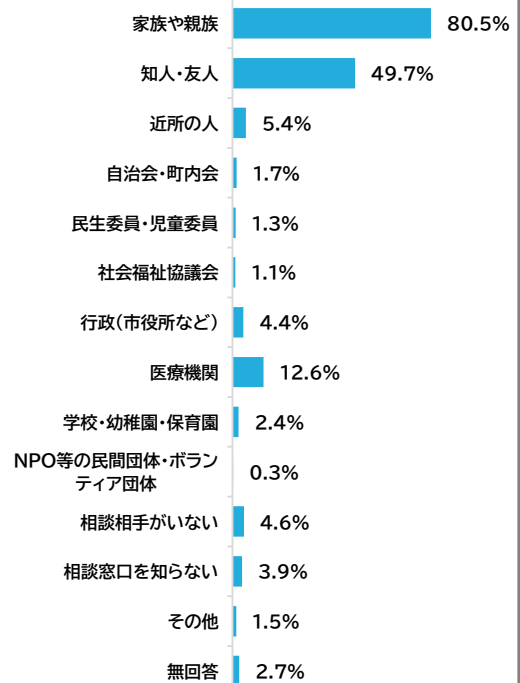
■ 孤独感について

約1割の人が、「(孤独感が)常にある」と回答しています。



■ 困りごとの相談先【複数回答】

回答の約8割が「家族や親族」、約半数が「知人・友人」となっています。また、「相談相手がない」が4.6%、「相談窓口を知らない」が3.9%となっています。



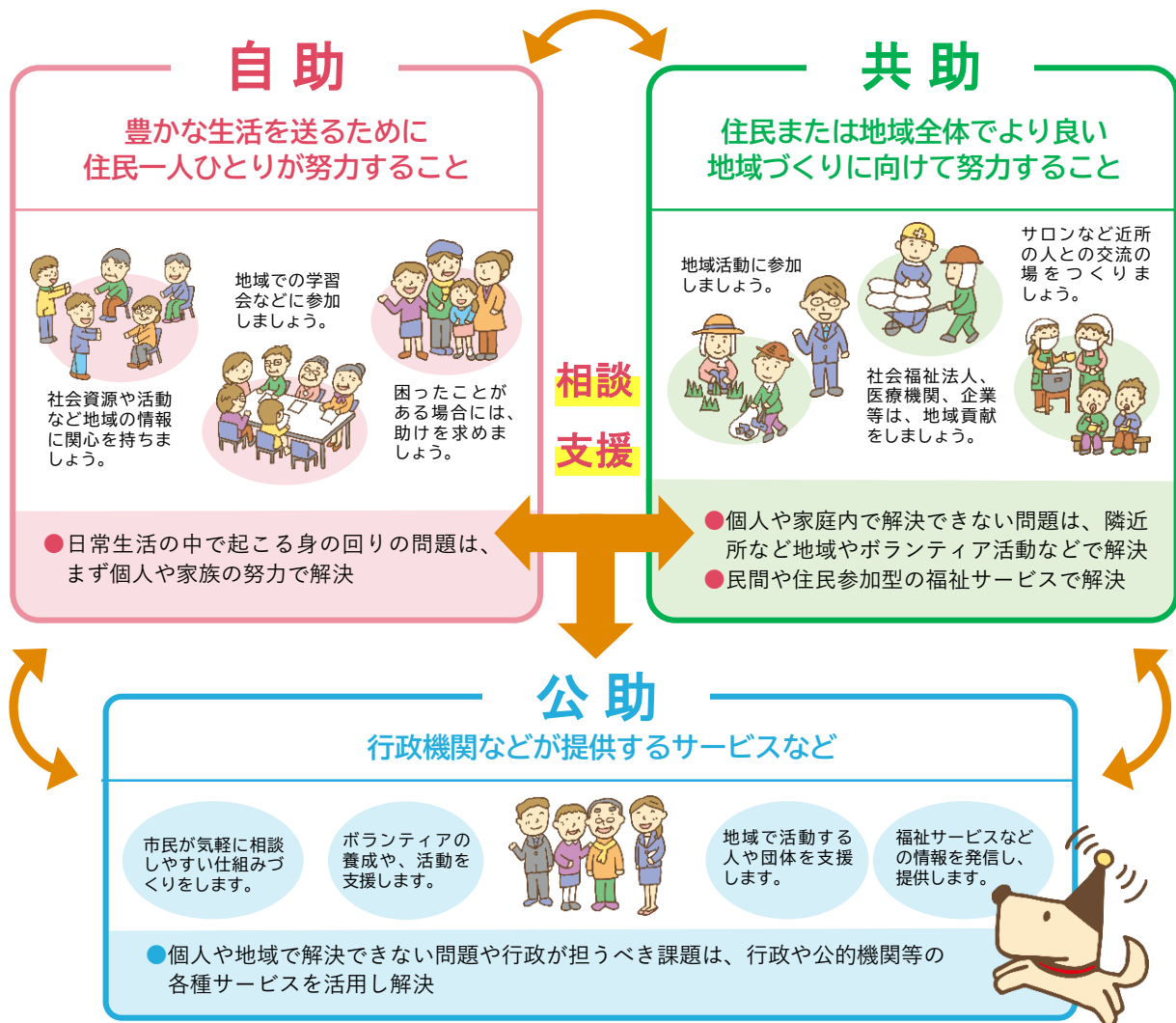
02 「地域共生社会」の実現に向けて

急激な人口減少と少子高齢化の進行により、社会経済の担い手が減少し、地域の活力や行政サービスの持続可能性が危ぶまれる状況となっています。

また、核家族化の進行、価値観の多様化、ライフスタイルの変化、人と人とのつながりの希薄化など、様々な要因により、「8050問題」や「ひきこもり」、「ヤングケアラー」をはじめとした複合化・多様化した課題、孤独や生きづらさを抱える人が増えています。

こうした課題は、高齢、障がい、子ども・子育て、生活困窮といった属性別・分野別の福祉制度や支援だけでは解決が難しく、また、困りごとを抱えている人の中には、自ら助けを求めることができず、深刻な状態になるまで問題が表面化しないことも多くあります。

そのため、困りごとを既存の制度に当てはめるのではなく、一人ひとりに寄り添った支援の充実が求められるとともに、日常における人と人とのつながりを再構築し、誰もが孤立せずにその人らしく暮らせる社会にしていくことが求められています。



「地域共生社会」の実現に向けては、住民、企業、社会福祉法人、NPO、行政等、あらゆる人や団体が協力して「つながる」ことにより、「支える側」「支えられる側」という関係を越え、みんなでみんなを支え合うことが大切であり、そのために、地域福祉の推進は欠かせないものです。

今後、人口が急激に減少する中で、地域福祉を推進するためには、「自助」、「共助」、「公助」のそれぞれが役割を果たしながら、補い合い、重なり合うことが求められます。

03 | 計画の基本理念

基本理念

だれもが安心して、
いきいきと自分らしく暮らせる
支え合いのあるまち

スローガン

いつも心に“ほおっちょけん”
ひろげよう“つながり”の輪

第2期計画に引き続き、住民、企業、社会福祉法人、NPO、行政等地域の多様な主体がつながりを持ち、それぞれの役割を果たしながら、地域づくりに参画し、つながりのあるまちづくりに取り組めます。

「つながりのあるまちづくり」のイメージ



04 | 基本目標

基本目標		施策の方向性	
1	地域の多様な担い手の発掘と育成	重点	1-1 多様な主体の意識醸成
		重点	1-2 多様な主体の活動支援
2	地域での課題解決力の強化	重点	2-1 多様な主体がつながり課題解決に向けて話し合う場づくり
		重点	2-2 課題解決に向けた住民主体の地域活動の支援
3	だれもが活躍できる地域づくり		3-1 多世代・多分野の交流の場づくり
		重点	3-2 だれもが活躍・参加できるための支援
4	包括的な相談支援体制の充実	重点	4-1 相談支援機関の連携強化
			4-2 地域における見守り・支え合いの充実
5	安全・安心につながる環境づくり		5-1 暮らしやすい生活環境の整備
			5-2 災害対策の充実
			5-3 地域共生社会の実現のための基盤強化

指標と目標

指標		第2期実績 (令和5年)	第3期目標 (令和12年)
基本目標1	助け合いが「必要だと思う」「あった方がよい」と思う市民の割合	80.3%	95%
	地域活動やボランティア活動へ「参加している」市民の割合	13.2%	20%
基本目標2	地域での助け合いがあるかどうかについて「大変そう思う」「そう思う」市民の割合	41.1% (令和6年)	50%
基本目標3	孤独感が常にある市民の割合(※)	7.3%	5%
基本目標4	困りごとがあるとき誰に相談するかについて「相談相手がいない」市民の割合	4.6%	2%
	地域での助け合いがあるかどうかについて「大変そう思う」「そう思う」市民の割合【再掲】	41.1% (令和6年)	50%
基本目標5	今後も高知市に住み続けたいと思う市民の割合	90.0% (令和6年)	100%

【第2期実績：令和5年市民アンケート調査および令和6年市民意識調査】

※孤独感について3つの間接的な設問への回答をスコア化して評価する。

05 | 重点施策

基本目標1 地域の多様な担い手の発掘と育成

- 1-1 多様な主体の意識醸成
- 1-2 多様な主体の活動支援

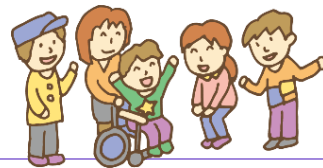
【市民一人ひとりができること、心がけること】

- 例**
- 困った時には身近な人に「助けて」と伝えましょう。
 - 地域に関心を持ち、自分にできることから始めましょう。
 - 活動に参加する際には、身近な人を誘って参加しましょう。



【地域の身近な人たちや地域全体で取り組むこと】

- 例**
- 地域であいさつや声かけ、見守りをしましょう。
 - 企業や社会福祉法人は、地域貢献に資する取組を通じて、住民主体の活動への支援をしましょう。



取組

市社協

- 福祉教育(ほおっちょけん学習等)の推進
- 共同募金等の推進を通じた寄付文化の醸成
- ボランティアセンター機能の強化
- 社会福祉法人連絡協議会等の地域における公益的な取組の拡充

市

- ホームページ、LINE等の情報発信
- 「高知くらしつながるネット(愛称Licoネット)」の運用
- 地域単位で活動する団体・組織(町内会・自治会、町内会連合会、地域内連携協議会、自主防災組織、老人クラブ、いきいき百歳体操等)の運営や活動の支援
- 民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくり
- 企業の地域貢献活動の支援

基本目標2 地域での課題解決力の強化

- 2-1 多様な主体がつながり課題解決に向けて話し合う場づくり
- 2-2 課題解決に向けた住民主体の地域活動の支援

【市民一人ひとりができること、心がけること】

- 例**
- 声かけや見守りなどの活動を通じて、気になること・不安に感じるなどがあれば、地域の相談窓口や行政等の専門相談窓口伝えましょう。
 - 地域での話し合いに参加しましょう。



【地域の身近な人たちや地域全体で取り組むこと】

- 例**
- 地域の「気になること」について話し合う機会をつくりましょう。
 - 地域全体でできること等について、みんなで考え、協力し合って取り組みましょう。

取組

市社協

- ほおっちょけんネットワーク会議の開催支援
- 既存の社会資源の機能拡充や新たな社会資源の創出
- 生活支援ボランティアの養成・活動支援
- 住民と専門職、社会福祉法人、企業等の関係機関が協働した地域づくりの実践支援

市

- 地域生活課題の把握、共有、解決に向けた話し合いの場づくりや連携・協働の支援

基本目標3 だれもが活躍できる地域づくり

3-2 だれもが活躍・参加できるための支援

【市民一人ひとりができること、心がけること】

例

- 身近な地域の居場所や、活動拠点を知り、活用しましょう。
- 興味・関心のある活動に参加しましょう。
- 地域の中で、自分にとって居心地のいい居場所や役割を見つけてみましょう。



【地域の身近な人たちや地域全体で取り組むこと】

例

- だれもが活躍できる場を積極的に検討し、提供しましょう。
- 学生や若者などをはじめとした様々な住民がボランティア活動等に気軽に参加したくなる、楽しみのある機会づくりを進めましょう。
- 分担できる仕事や役割を見つけ、様々な人が社会と関わる機会づくりをしましょう。

取組

市社協

- だれもが参加しやすく活躍できる場の創設・機会づくりの推進
- 各分野の専門機関と協働した生きづらさを抱えた方の社会参加支援
- 社会的孤立の状態にある方に対する社会参加の機会の提供
- ボランティアとなる人材の発掘・育成
- ボランティアが活躍できる環境づくり

市

- 地域における多様な居場所づくりの推進
- 元気な高齢者や障がい当事者等のピアサポーターの社会参加の推進
- 地域に関心、愛着が持てるイベント活動等の開催および情報発信

基本目標4 包括的な相談支援体制の充実

4-1 相談支援機関の連携強化

【市民一人ひとりができること、心がけること】

例

- 様々な相談窓口・相談支援機関を知りましょう。
- 困ったときは、家族や知人、友人、近所の人や町内会・自治会、民生委員・児童委員などに相談しましょう。



【地域の身近な人たちや地域全体で取り組むこと】

例

- 助けを求めている人がいれば、相談窓口や相談支援機関につながりましょう。
- 課題解決のために様々な分野の専門機関と連携しましょう。

取組

市社協

- ほおっちょけん相談窓口の運営支援
- 成年後見制度等の周知・啓発、市民後見人の養成および活動支援
- 生活困窮者自立支援の充実

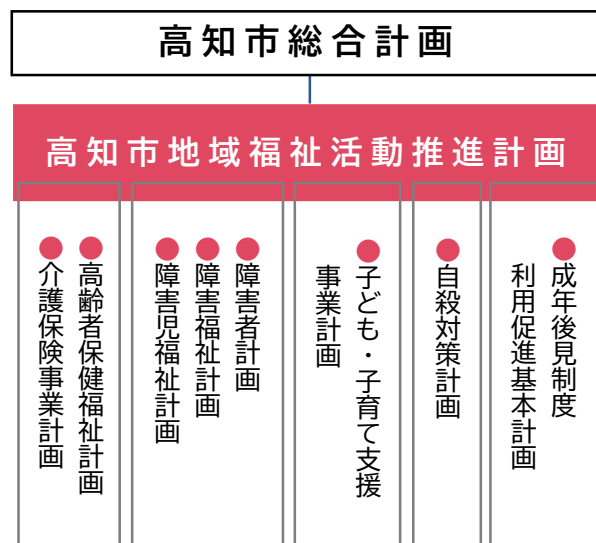
市

- 相談者の世代や属性、相談内容を問わない包括的な相談支援
- 研修、事例検討、(重層的)支援会議等を通じた人材育成
- 多機関・多職種専門職や地域の担い手などの連携・協働、ネットワークの強化
- 相談支援機関やほおっちょけん相談窓口の周知

計画の位置付け

高知市地域福祉活動推進計画は、高知市総合計画を上位計画とし、また、福祉の各分野における共通事項を定め、関連する各計画の上位計画として位置付けます。

この計画は、社会福祉法第107条に基づく市町村計画である「高知市地域福祉計画」と高知市社会福祉協議会の計画である「地域福祉活動計画」を一体的に策定したもので、「重層的支援体制整備事業実施計画」と「再犯防止推進計画」を包含しています。



「ひとりの100歩」より「100人の1歩」を！



ほおっちょけん

誰かひとりに
しんどいことを
「まかせっきりにしない」

ハナ

小さな困りごとでも発見できる
「とってもよく利くハナ」

ワン

あいさつは助け合いのはじまり
「気持ちを声に出してみよう」

手

お手伝いができる「まかせ手」
手伝ってと言える「たすけ手」

アンテナ

一人ひとりがアンテナ役となって
「困っている人を
一人ぼっちにしない」

編集・発行・問い合わせ先

■ **高知市健康福祉部 地域共生社会推進課**

〒780-8571 高知市本町5丁目1番45号
☎088-821-6513 FAX 088-821-7230
✉kc-111200@city.kochi.lg.jp

■ **社会福祉法人 高知市社会福祉協議会**

〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番45号
総合あんしんセンター3階
☎088-823-9515 FAX 088-823-8059
✉shakyo@kochi-csw.or.jp

この概要版には本冊子があります。上記窓口へのお問い合わせのほか、ホームページからご覧いただけます。

